

平成 30 年度 IYP 「石狩の未来を考える子ども議会」 議事録

日時 平成 30 年 10 月 14 日（日）14 時 00 分～16 時 30 分
場所 石狩市役所 議場

次第

- 1 議員入場（司会：石狩市立石狩中学校 2 年 堀井杏珠）
 - 2 激励の言葉（石狩市議会議長 日下部勝義）
 - 3 開会
 - 4 平成 30 年度 IYP 「石狩の未来を考える子ども議会」概要説明
 - 5 議事
- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 会期の決定
日程第 3 提案・質問

◆代表質問

『生活環境・安全グループ』 ・災害対策について

『教育・学校グループ』 ・登下校の学習用具の軽減化について
・給食の時間とメニューについて

◆一般質問（4 名）

◆代表質問

『まちづくりグループ』 ・買い物弱者（難民）対策について

『人口問題グループ』 ・人口減少対策と市の P R について

◆一般質問（5 名）

- 6 講評（石狩市議会副議長 加納洋明）
- 7 閉会

出席者

子ども議員（敬称略）

佐藤 春陽	浅川 栄梨	中島 唯花	若林 沙樹
折居 未羽	田中 ゆら	坂田 遥輝	中村 妃菜
大村 未花	堀井 杏珠（司会）	相馬 佑紀	田中 汐音
木村 颯汰	高村 莉緒	越野 翼	森谷 宏平
喜多 優成（副議長）	大崎 瑠菜（議長）		

来賓

市議会議長	日下部 勝義
市議会副議長	加納 洋明
議会運営委員会委員長	片平 一義
総務常任委員長	青山 祐幸
厚生常任委員会委員長	花田 和彦
建設文教常任委員会委員長	村上 求

説明員

市長	田岡 克介	教育長	鎌田 英暢
常勤監査委員	加藤 龍幸	総務部長	及川 浩史
企画経済部長	小鷹 雅晴	企画経済部次長	本間 孝之
産業振興担当部長	百井 宏己	財政部長	大塚 隆宣
環境市民部長	新岡 研一郎	保健福祉部長	三国 義達
健康推進担当部長	上田 均	建設水道部長	清水 雅季
生涯学習部長	佐々木 隆哉	厚生支所長	西田 正人
浜益支所長	松田 裕		

事務局

子ども政策課	伊藤 学志、川畑 昌博、青木 宏美、村田 範江、小林 里依、大橋 雄希 鈴木 里美、村上 理絵
議会事務局	工藤 一也
浜益支所生涯学習課	菊地 直人

傍聴者 51名

1. 議員入場

○司会

皆さん、こんにちは。IYPの石狩翔陽高校の堀井です。

これから子ども議員が1人ずつ入場します。議場の皆さんお手をお迎えください。

それでは、子ども議員の入場です。

(子ども議員紹介)

これで子ども議員の紹介を終わります。今日は皆さんよろしくお願ひします。

2. 激励の言葉（石狩市議会　日下部議長挨拶）

○司会

それでは、開会に先立ちまして、石狩市議会、日下部 勝義 議長より、激励のご挨拶を頂きたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○日下部議長

IYP議員の皆さんこんにちは。石狩市議会議長の日下部でございます。

この子ども議会は今回で4回目の開催とのことで、今年も皆さんの目線で、石狩市の未来に希望のもてる提案をいただけることを期待しています。

皆さん、今日の日を迎えるまで、土日や夏休みの時間を通じて6回に渡るミーティングを行つてきましたと伺っております。

そのなかで、石狩湾新港や砂丘の風資料館、道の駅などを散策したり、市職員から市の取り組みなどのお話を聞いたりと、様々な発見や学びの機会になったことだと思います。

その成果を、是非、この議会で発揮していただきたいと思っております。

そして、皆さんの中から将来の石狩市議会議員となる方がもしかしたら現れるかもしれません。議長といたしましては、そのようなことも期待しつつ、本日の皆さんを応援したいと思っています。

最後になりますが、IYPの皆さんをはじめ、これまでの活動を支援してくださった保護者の皆様、教職員の皆様に感謝とお礼を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。本日は頑張ってください。

○司会

日下部議長、ありがとうございました。

それでは、まもなく子ども議会の開会です。

3. 開会

○議長

皆さん、こんにちは。

ただいまから、平成30年度IYP「石狩の未来を考える子ども議会」を開会いたします。

私は議長を務める石狩翔陽高校、大崎瑠菜です。よろしくお願ひします。

本日の日程は、お手元に配布のとおりです。

4. 平成 30 年度 I Y P 「石狩の未来を考える子ども議会」の概要説明

○議長

続いて、I Y P 「石狩の未来を考える子ども議会」の概要を説明します。

私たち子ども議員は、I Y P (石狩ヤングプロジェクト) のメンバーとして、石狩市内の各中学校・高校から推薦されています。

I Y P (石狩ヤングプロジェクト) とは、子どもたちが意見を表明する機会やまちづくりに子どもの視点を取り入れるために作られたプロジェクトチームで、平成 22 年から活動しています。

今年は、子ども議会のために、7 月 21 日から 6 回のミーティングを行い、各校生徒会で考えてきた提案内容をグループワークで深めてきました。

今日は、田岡市長・鎌田教育長を初め、市役所の皆さんから、私たちの提案や質問について答弁をしていただきます。これから私たちが発表する意見が、今後の石狩市のまちづくりに活かされ、誰もが「住み続けたい！住みたい！」と思う石狩市になることを願います。

これで説明を終わります。

5. 議事

○議長

それでは、議事を始めます。

日程第 1 「会議録署名議員の指名」を議題といたします。

会議録署名議員は、石狩中学校、堀井議員を指名いたします。

次に、日程第 2 「会期の決定」について、を議題といたします。

お諮りいたします。今議会の会期は、本日 1 日間といたしたいと思います。ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。したがって、会期は、本日 1 日間と決定いたしました。

それでは、これから日程第 3 「提案・質問」に移ります。2 グループごとに代表質問をした後、一般質問に移ります。代表質問については、グループごとに考えた内容を市長・教育長に提案・質問いたします。一般質問については、個人で市長・教育長に提案・質問いたします。

なお、傍聴席からの発言はできませんので、何かございましたら、お配りしましたアンケート用紙にご記入ください。

それでは、順序に従い、順次許可いたします。

最初は「生活環境・安全グループ」の質問です。花川北中学校、若林議員、樽川中学校、坂田議員、厚田中学校、相馬議員、浜益中学校、木村議員、よろしくお願ひします。

○若林議員（花川北中学校）

災害対策についてご質問します。

9 月 6 日に起きた北海道胆振東部地震の影響で停電になり、ラジオでは復旧まで 1 週間ほどかかる

ると報道され、不安になりました。また、暗闇の中でどのような行動を取れば良いのか分からなくなってしまい、困りました。このことから再び災害が起きたときのためにいくつか対策が必要だと思いました。そこで、最初に考えたのが非常食についてです。今回の災害でスーパーの食料品も売りきれが目立ち、買える量も限られている状況でした。このようなこともあります、非常食を備えておくことはとても大切だと感じました。

そこで、市では何日分、何人分の非常食を備えているのかお伺いします。

次に地区防災ガイドについてです。地震が起きた直後の不安の中、どうしたら良いかと家族で話し、どこかへ避難した方がいいか、周りの人はどこかへ行くのか外を見たりもしました。私たちのようにどこかへ避難しなければいけないと思った人が他にも大勢いたと思います。そこで地震が発生し、市民の防災意識が高まつたいま、地区防災ガイドを広めることが必要だと考えました。

以上の点から地区防災ガイドを多くの方に広める方法として公共施設などに設置する考えはあるのかお伺いします。

○坂田議員（樽川中学校）

最後に再生可能エネルギーについてです。

以前、IYPでバス見学に行き、新港などを視察しました。その際未だ組み立てられていない風車の羽を見かけました。家に帰って調べて見ると石狩では今後多くの風力発電の設置が予定されているということが分かりました。また、石狩市にある再生可能エネルギーについて調べてみると風力発電のほか、太陽光発電も設置されていることが分かりました。

そこで、市内にある風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーは、北海道胆振東部地震の時、どのように活用されたのかお伺いします。

また、電気をより早く復旧させるためには再生可能エネルギーを新たに設置することは必要なことだと思います。僕たちは今ある再生可能エネルギーの設備以外にも新たな設備の設置を提案します。以前学校の理科の授業で波力発電や潮力発電という言葉を聞いたのを思い出し、調べてみると、島国である日本の発電に適していると分かり、さらにこれらの発電方法は風力発電や太陽光発電より数十倍の電力を生み出せると分かりました。石狩市は海が近いので、波力発電の設置を考えてみてはどうでしょうか。

○議長

田岡市長。

○田岡市長

ただいまのご質問にお答えします。まず石狩市の災害に関する非常食の量についてですが、石狩市では、平成12年度に本市が公表した石狩地震による被害想定を基に、非常食や生活物資等をストックしており、非常食については、避難者に市職員などを加えた4,700人の1食分を備えております。これが、今日、この数字で良いのかという問題になっているところです。

次に地区防災ガイドの公共施設への設置についてですが、ご承知のとおり、5月に見直しを行い、新しい非常に見やすくなった地区防災ガイドを、広報いしかり7月号と併せて各家庭に全戸配布をさせていただきました。したがって、一軒一軒の家に全部渡したことになりますので、これ以上の細かい配布は事実上困難ですが、ご提案のあったように、特に公共施設など多くの方が集う

ところには、さらに重ねて必要でないかと思っております。学校や図書館などを含めて、これからどのような効果的な公共施設の使い方があるか、よく考えていきたいと思っております。場所や内容などについては当然のことながら、新しい情報にしていかなければならないことから、全戸配布の後に今回の地震を経験し見直しを直ちにすることになっております。それらについても、できましたら途中に公共施設等に掲示したり、広報に掲載するなど、速やかに伝えることを考えていきたいと思っております。

次に、北海道胆振東部地震の際の再生エネルギーの活用状況についてですが、平成 29 年 12 月末時点の市内再生可能エネルギーの導入量は、太陽光発電 13,856 キロワット、風力発電 9,800 キロワット、バイオマス発電 1,200 キロワットとなっております。その後も、建設が進められているものもありますので、今後、ますます増えていく見通しがあります。

これら市内の再エネ設備が、北海道胆振東部地震の際、どの様に活用されたのか、とのご質問ですが、残念ながら、個別の設備の状況としては市役所では把握できません。しかしながら、先日、国が発表したところによりますと、地震に伴う停電が発生した後の 9 月 11 日から 14 日に、太陽光と風力による発電量が最大で北海道全体の電力需要量の 3 割を賄ったとのことですので、石狩市内の設備も含めて、北海道全体の太陽光や風力の設備が、電力不足を補うことに貢献したと考えられます。

太陽光や風力などで発電された再エネ電気は、北海道電力の送電網を通じて北海道内全体に供給される仕組みなので、6 日の地震発生後、この送電網がストップしてしまいました。従いまして、一時、再エネ発電もほぼすべてが自動停止してしまったという状態になりました。その後、停止していた再エネ以外の発電所が徐々に動き出し、送電網の機能が少しづつ回復していくのにつれて、再エネ発電設備も少しづつ動き出し、11 日午後 0 時台には、需要量 262 万キロのうち、太陽光を中心に再エネの出力は 30% に当たる約 80 万キロワットが供給されたことになっております。

「2割節電」の期間中だった、11 日から 14 日の間も、最大時で 22%～30% と、北海道内の電力供給が不安定な中で、一定の貢献を果たしたものと考えています。

最後に、波力発電設置についてですが、発電はエネルギーが動くと寒くても暑くても様々な形で発電の要素があります。波の上下運動エネルギーを利用した発電システムで、実用化に向けて、世界各国で様々な研究が進められているようですが、一方で、コスト面や海洋の環境問題などから、まだまだ、検討すべき余地があるということで、やはり皆さんができるようなコストによって始めて電力は役割を果たせるようになるのではないかと考えております。

したがいまして現時点では、市が主体となって設置を考える予定はありません。四方を海に囲まれた日本にとっては、実用化の研究が進むことに大きな期待が持てると思いますので、この問題はおそらく時代が様々な形で解決してくれると思っています。今後とも注目したいと考えています。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

樽川中学校、坂田議員。

○坂田議員（樽川中学校）

ただいまの答弁について、再質問します。

地震による被害想定をもとに 4,700 食の非常食を備えているとのことですですが、この量で十分なのでしょうか。いつ災害が起きても食料不足にならないために非常食をもっと増やすべきと考えますが、いかがでしょうか。

次に地区防災ガイドについてですが、子どもにも関心を持って見られるように小学生など小さい子どもが見ても内容が分かるようになります。

そこで、学校、児童館、公園などに季節ごとに更新されるイラストが書かれた子ども向け防災ガイドとマップの看板を設置するはどうでしょうか。そうすることで災害が起きたときにスムーズに避難できると思います。

○議長

田岡市長。

○田岡市長

再度のお尋ねにお答えします。

始めに、非常食を増やす考えについてですが、確かに 4,700 食は全く足りません。今回の災害において、スーパー、コンビニの店頭の状況を見ると全く足りないです。それと同時に平成 12 年の基準でありますから、新しい基準によると数字が変わってきます。これはすでに検討段階に入っていますので、増やしたいと思っております。どれくらい増やすかはそれぞれのまちの中のバックグラウンドと言いますか、例えば石狩市でしたら大変大きな企業の物流センターがありまして、そこに色々な生活資材がストックされております。札幌に近いとか近接する都市との間にお互いに協定を結んでいるなど様々なバックアップをする仕組みもありますので、単純に何食で安全だとは言えないですが、増やしていきたいと思っています。被害者総数が 14,611 人という新しい基準となっておりまので、それらを含めて避難者の皆さんのが避難先で食事に危惧するということが何とかなるように、また、一般的に言われているのは、48 時間が経つと日本の国は必ず食べ物が供給される状況になっておりますので、基本的にはそこも含めながら進めていきたいと思っております。

さらに大変大きな企業と、災害の際にトラックを石狩に派遣できるような協定を結びました。これは本社が埼玉県にあり、石狩にも大きな物流センターを持っている企業ですが、全国からの支援体制ができるような会社との契約を結びました。

何よりも大切なのが、自分の命を守るには家庭内においても参加していただきたいということだと思います。全部を役所がしたり、誰かがしてくれるということではなくて、皆が当事者であって欲しい、できたら三日から一週間分くらいのストックはあって欲しいと、希望的には思っております。

次に子ども向け災害掲示板の設置についてでありますが、確かに市のガイド版は概ね小学校高学年が理解できるように作るということになっていますが、作ったのは大人です。果たしてその目線になっているかどうかということは非常に問題で、特にイラストなどは、市は苦手な部類です。ですから、皆さんの新しいスマート文化などを考えたら、もっともっと工夫する必要があるんだと思っております。皆さん方が参加されて作る過程において、これの方がもっと分かりやすいよという提案も必要ではないかと思っておりますので、これからは作る過程において皆さんにご参加をいただく、あるいはそこの地域ごとに皆さんのが参加されるというのも良いのではないかと思っております。掲示板を子どもの目線の見やすいところに置くというのは必要なことだと思っておりますので、ど

ういうふうにしたら良いのかを考えていきます。

○議長

ほかに再質問はありますか。

再質問が無いようですので、最後に一言お願いいたします。

○若林議員（花川北中学校）

ありがとうございました。私たちは防災意識を高め、いつ災害が起きても慌てないように非常食などを備えておきたいと思います。

今後、私たちが考えたアイディアが採用され実施されることを願って「生活環境・安全グループ」の質問を終わります。

○議長

以上で、「生活環境・安全グループ」の代表質問を終わります。

発表を終えた4名に大きな拍手をお願いします。

続きまして、「教育・学校グループ」の質問です。花川中学校、佐藤議員、同じく、浅川議員、厚田中学校、田中議員、石狩翔陽高校、喜多議員、石狩南高校、越野議員、よろしくお願いします。

○浅川議員（花川中学校）

私たち「教育・学校グループ」からは登下校の学習用具の軽減化と給食の時間とメニューについて質問します。

最近、ニュースや新聞などでも話題になっていますが、私たちは、毎日の重い学習用具を持って登下校しています。これは、学習内容が増えたことにより、教科書のページ数や資料などが増えたためであり、全国では肩こりや腰痛になる子どもたちもいて、発達に影響をきたしているとも聞いています。

私たちのなかでも日頃の会話やSNSなどで「重い」「かばんが壊れる」などという声もでています。また、自転車通学ではバランスをくずして転んだり、事故にあう危険性もあります。不審者に襲われたときに逃げることが難しくなることも考えられます。

そこで質問です。先日、文部科学省より学習用具の重さや量について配慮するよう教育委員会や学校に通知が出され、石狩市の学校でも軽減の取り組みがされているようですが、学校によって取り組みに違いがあるようです。5教科も含めた家庭学習で使用する予定のない教科・教材を置いて帰ることを認めているところもあると聞いています。それぞれの学校での取り組みについて見直し、再度取り組みについて検討することが必要と考えますが、いかがでしょうか。

○越野議員（石狩南高校）

次に給食の時間とメニューについてお伺いします。

給食時間については、現在給食の時間に準備や後片付けの時間も含まれており、みんなでごちそうさまをした後に昼休みという流れになっています。給食時間は30分ほどありますが、準備や後片付けを除くと実際に食べる時間は15分くらいしかありません。そのため、よく噛んで食べることができなかったり、食べることが遅い子は給食を残さなくてはなりません。

私たちは小さい頃からご飯はよく噛んで食べよう、ご飯は残さず食べようなどと言われてきました

た。また、せっかくの給食の時間、友だちと話をして楽しく食べたくてもその余裕もありません。このようなことから私たちは給食時間の拡大を提案しますが、石狩市はどのように考えますか。

○喜多議員（石狩翔陽高校）

次に給食のメニューについてですが、給食センターが新しくなり、ご飯がパックから給食センターで炊いたものになり、メニューにも変化がありました。メニューも凝ったものが増えた反面、私たちのなかで人気のあったメニューが見られなくなりました。

また、さきほどの質問にも関連しますが、給食の時間が少ないにもかかわらず、ご飯をよそったりすることで準備に時間がかかったり、冷凍みかんなど食べるのに時間がかかるメニューも出たりしています。

そこで質問ですが、給食のメニューは誰がどのようなことにもとづいて決めているのかをお伺いします。

○議長

鎌田教育長。

○鎌田教育長

ただいまの教育に関するご質問に対して私の方からお答えします。

始めに登下校の学習用具の軽減化についてありますが、皆さんのが使用されている教科書は学習内容が増えたり、より分かりやすくする工夫として写真や図などの資料が多く使われ、そのためページ数が増えたり、サイズも大型化されるなど教科書自体も大変重くなったり、さらには教材や学習用具、体育用品などを加えると登下校時の荷物がかなり重くなっているということは私も承知しているところでございます。

市内の各小中学校におきましては、その対応として教材や学習用具を学校に置くことを認めるなど可能な限り配慮していますが、それぞれの学校事情に踏まえての対応ですので、学校間で差が出ていることも事実でございます。もちろん皆さんの身体の発展に影響を及ぼす恐れがあるようなことは避けなければなりませんが、一方では教科書やノートなど皆さんの家庭での学習に必要な物もありますことから、この度の文部科学省の通知を参考に、健康面と学習面を十分に考慮しながら改めて工夫検討が必要ではないかと考えてございます。これからも登下校の負担ができるだけ軽減できるような働きかけを市内の全校に行っていきたいと考えてございます。

次に給食についてのご質問ですが、給食の時間につきましては学校ごとに一日の学習時間や登下校の時刻、清掃や放課後の活動時間などを考慮して、全体のバランスを考えて決めているところでございます。

ご質問もありましたように中学校では平均で30分、小学校におきましては平均で40分。確かにもう少しゆとりのある給食の時間の設定ができないかと思いますが、給食時間を延ばすということは国で定められている皆さんが学ぶ授業時間の関係から休み時間や放課後の時間を短くしたり、あるいは登下校の時間を変えるなどのことが必要となってきますので、逆に学校での一日の時間が窮屈になることも予想されます。現状ではゆとりのある給食の時間設定は難しいと考えているところでございます。

給食のメニューにつきましては、栄養教諭の先生が成長期にある小中学生に必要な栄養や組み合

わせを確保できるよう、さらに地場産物や旬の食材などを使用するなど、安全で美味しい給食をできるように考えながら決めているところでございます。私からは以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

花川中学校、浅川議員。

○浅川議員（花川中学校）

登下校における学習用具の負担軽減について学校や私たちが取り組める方法には限界があると思います。そこで私たちからの提案ですが、日頃持つて歩く教科書や教材が軽くなれば負担も減ると思います。今の教科書は地理や歴史など中学1・2年生で使う教科書がひとつにまとまっているので、1年生用、2年生用に分けたり、国語なども上下巻に分けるなどすれば持ち歩く量も減ります。

次回教科書を作るときに重さや量などに配慮したり、分冊したりすることはできないか伺います。

○越野議員（石狩南高校）

授業時数などの事情もあり、給食時間などにしづ寄せがいってしまうことは理解できますが、掃除の時間を給食後にしている学校もあると聞いています。掃除の時間を朝にする、そのため登校時間を少し早くしたり、札幌では給食の時間と昼休みを一緒にしているところもあると聞いたことがあります。給食の時間と昼休みを明確に分けて一緒にするなどの工夫はできないでしょうか。

また、給食時間を長くとるための工夫やアイディアについて子どもたちから意見を伺う考えがないか伺います。

○喜多議員（石狩翔陽高校）

次にメニューについてですが、栄養バランスなど考えなくてはいけないことも分かりますが、これまで人気のあったメニューなどはなくなってほしくありません。

年に1回アンケートをしていますが、メニューに反映されている実感もありません。

そこで提案ですが、1つ目が、メニューについてのアンケートを行い、その結果をメニューに反映する日をつくってもらいたいです。

2つ目が、メニューについての意見をいつでも出せるようにしていかがでしょうか。

3つ目が、全市のとりまとめの人気メニューの日を1回だけにするのではなく、今回は〇〇小学校で1番人気のメニュー、次回は先生たちに人気のメニュー、1年生に人気のメニューなどというテーマ別人気メニューの日を作つても面白いと思いました。

4つ目が、今あるメニューについてだけ聞くのではなく、新しいメニューのアイディアや昔あったメニューについても聞いてもらえないでしょうか。

仲間たちからはわかめごはんをぜひ復活してもらいたい、あげパンを食べてみたいという声がありました。どうかご検討くださいますようお願いします。

○議長

鎌田教育長。

○鎌田教育長

重ねてのご質問に私の方からお答えいたします。

最初に教科書の分冊化ですが、教科書は民間の教科書会社が編集・製作し、その後、文部科学省が検定し、その検定に合格したものが教科書として取り扱われることになっております。各市町村教育委員会においては、検定に合格した何種類かの教科書の中から、各教科でより良いものを1つ選び、みなさんに配布しているところでございます。

教科によって教科書を分ける、いわゆる分冊化するという考えは、荷物を軽量化する取り組みにつながる、斬新で非常に良いアイディアだと思います。市教委としましても、重さや量に配慮したより使いやすい教科書となるよう、機会を捉えて皆さんの意見もしっかりと伝えていきたいと考えてございます。

次に給食の関係ですが、ゆとりある給食の時間設定は先ほど述べましたように、非常に難しい状況にはありますが、今後給食の時間と掃除、昼休みとの関係を工夫できないかも含め、皆さんに考えていただいたいたアイディアなども学校で改めて検討してもらうよう、働きかけていきたいと考えてございます。ぜひ皆さんも給食時間を含め一日のよりよい時間の過ごし方を考えて可能な限り給食時間を長くする工夫やアイディアを生徒会の先生などに伝えていただきたいと考えております。

給食のメニューですが、年に一度、小学5年生と中学2年生を対象として嗜好調査を行い、その結果を献立に取り入れるようにしていますが、さらにできるだけ機会を捉えてメニューに反映できるように考えていきたいと思っております。復活希望のあった人気のわかめごはんは今後のメニューに取り入れられるよう、現在栄養教諭の先生、給食センターの職員が新しい機械で試し炊きを行っている最中ですので、もう少しお待ちください。給食センターの調理員もおいしい給食を提供するために毎日頑張っていますので、皆さんも残さず食べてもらえると大変嬉しいです。なお、来週火曜日（16日）のメニューではミニ揚げパンを提供することにしていますので、楽しみにしていてください。私からは以上です。

○議長

ほかに再質問はありますか。

再質問が無いようですので、最後に一言お願いいたします。

○浅川議員（花川中学校）

私たちからの提案について前向きなご回答をいただきありがとうございます。私たちもこのような学校生活における問題について、私たち自身どのようなことができるのか仲間たちと考え、先生たちとも話し合いよりよい学校生活を送れるようがんばっていきます。

私たちのグループからの質問は以上で終わります。ありがとうございました。

○議長

以上で、「教育・学校グループ」からの代表質問を終わります。

発表を終えた5名に大きな拍手をお願いします。

それでは、続きまして、一般質問に移ります。

厚田中学校、相馬議員、浜益中学校、木村議員、花川中学校、佐藤議員、厚田中学校、田中議員、

よろしくお願ひします。

○議長

それでは、厚田中学校、相馬議員、よろしくお願ひします。

○相馬議員（厚田中学校）

市長にお伺いします。

今までの市長経験のなかで一番つらかったこと、一番得したことを教えてください。

○議長

田岡市長。

○田岡市長

大変厳しいご質問ですね。

辛かったこと。市長になったからといって、辛かったと自分で思ったことはほとんどないですね。

辛いことはたくさんありますし、どうしようと思うこともあります。そういうことはありますが、市長と一緒に仕事をする市の職員や意見を言い合う議会とか市民の皆さんのがいるので、私自身は「解決できない問題はない」といつも職員に言います。今は辛くても必ず次の時代、あるいはすぐ解決できるかもしれません。ですから、辛いという意識はほとんどなかったです。むしろ仕事ができる喜びの方が大きいです。

得したことは、皆は市長は給料が高いと思っていませんか。確かに給料は高いです。ところがですね、時間割にしたら非常に安い給料で働いています。今日も朝9時から敬老会3つ。それから文化祭に行って、俳句の会の表彰式というようにして14時までの間にマラソンをしてきました。辛いといえばこういうことが辛いんでしょうけど、喜びの方が強いです。

得したことはですね、一言です。多くの人と知り合えたことに尽きます。その中に例えばですね、今日のように若い皆さんと滅多にお会いすることができない、あるいは皆さんにお答えすることができないということも考えるとですね、こういうことが得したことではないかと思います。

それから、花火大会のときに一番前に座れることかな。そのくらいで、市長だからと言って江戸幕府の殿様のように特別な扱いを受けることはないです。一つだけ言うのならば、24時間市長に公用車がついています。いつ何時どこにでも動けるようにということありますけれど、これは得したことより職務上必要なことですけど、やはり得をしたという感じはします。

ただ一方で、あまりにも車が側にいるものですから歩かないとこのような体になります。損したと思います。

答えになっていない答案で申し訳ないですけれど以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、花川中学校、佐藤議員、よろしくお願ひします。

○佐藤議員（花川中学校）

石狩市は鮭のまちとして有名ですが、意外と私の周りでも鮭の生態や鮭とマスを呼び分ける理由

など知らない人が多いです。私自身も父との会話で鮭のことをもっと知るべきだと思いました。

そこで、鮭のまち石狩に住む人として、小さい頃からもっと鮭についての知識を身につけるべきだと思いますが、市の考えをお伺いします。

○議長

百井産業振興担当部長。

○百井産業振興担当部長

ご質問ありがとうございます。

鮭の関係につきまして私の方から答弁申し上げます。

「鮭と言えば石狩」というのは私ども仕事をしている関係の者はそう思っているのかもしれません、ご質問にありましたように意外と知られていないということも実感しております。そういうことはありますても、石狩の歴史は鮭と共に作られ、そして今も色々なことにチャレンジするチャンスが作られるのも鮭のおかげと考えております。単なる観光だけでなく、石狩の顔となっている大切な宝物だと考えております。

ただいま申し上げましたようにご質問の中に、「石狩に住んでいる人は、案外と鮭のことをよく知らない」ということは私どもも同感でございます。鮭漁は海で行われているので、身近に見られることはできませんし、石狩鍋というものは全国的に有名で、ひょっとしたら石狩というまちを知らない人も石狩鍋は知っている人もいるかもしれません。その石狩鍋を私たち市民は家庭でどのくらい食べているのかなというとそこまで多く食べてないかもしれません。

そこで、石狩市では観光計画の中に、特に石狩に住む子どもたちに、鮭の歴史や文化などを良く知ってもらい、まちへの愛着や誇りを持ち、一人ひとりが石狩の魅力を伝えられるようになってもらうための取り組みをすることを盛り込みました。

その一つが今年作った「いしかり子ども探検ブック」と言います。以前から、子ども向けの観光パンフレットがあれば、まちのことが良く分かっていいという声がありましたので、第一弾として今年は子どもたちに石狩のことを知っていただくというような冊子を作り、この中には十分ではないかもしれません、鮭のことも触れております。今年から毎年、市内の小学5年生全員に配ることにいたしました。石狩のシンボルである鮭のことも載っていて、学校の図書館でも活用してもらっております。他にも、いしかりガイドボランティアの会が作成した、さけの生態がよく分かるパンフレットも全校に配っております。いずれも今年始まった取り組みですから、これから活用していただければありがたいと思っております。

また、本町にあります砂丘の風資料館には行かれていることと思います。そこには紅葉山砂丘から発掘された鮭を獲る仕掛けが展示されております。それはなんと4,000年も前のもので、石狩に住んでいた人が、はるか昔から鮭をとて生活していた歴史を知るもので。また身近なものでは、給食で石狩鍋が出るのも、子どもたちに石狩の鮭を知ってもらおうという取り組みの一つです。さらには、あき味の会という石狩鍋を作る店の人たちは、ボランティアで学校へ出向いて子どもたちと一緒に石狩鍋を作っていただいたりもしております。

それでもまだまだ、石狩の人たちが鮭のことを詳しく知っているまでにはなっていないと思っております。もっと石狩の鮭を大切にして、子どもたちにまちの宝である鮭のことを身近に感じて良く知ってもらい、石狩を愛する大人になって巣立ってもらえるよう、今後も市民の方や時には専門

の方のご意見もいただいて色々な取り組みをさらに進めて参りたいと考えております。私からは以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

花川中学校、佐藤議員。

○佐藤議員（花川中学校）

提案です。子どもたちにも鮭の知識について身に付けてもらうために、例えばさけまつりなどで鮭の一生劇などをやってみてはいかがでしょうか。

○議長

百井産業振興担当部長。

○百井産業振興担当部長

再質問にお答え申し上げます。

石狩市役所で色々なことを提供して、皆さんに学んでいただくことも大事だと思いますが、今ご提案のありましたように、市民の方に色々なところで関わっていただいて共に学んでいくことが大事だと思っております。

そんなことからさけまつりは、昨年あたりから小学校、中学校の方々にも参加していただくということもしております。今のアイディアも含めて今後一緒にになって鮭のことを学んだり、体験する機会を検討していきたいと思っております。アイディアありがとうございます。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、厚田中学校、田中議員、よろしくお願ひします。

○田中議員（厚田中学校）

厚田には新しく道の駅もでき、車通りや訪れる人も多くなってきているため、学校で交通事故や不審者に気をつけるようにと先生から話がありました。道の駅オープンから約半年がたった今でも休日は渋滞がおきることもあり、また、信号のない横断歩道も近くにあり危険だと思います。また、新しくできる学校は中学生だけではなく、小学生も通うことになり、道の駅からも近いため、交通事故や不審者への不安も以前に比べ大きくなっています。

そこで、新しくできる学校の交通安全対策や防犯対策はどのように考えているのか教えてください。

○議長

新岡環境市民部長。

○新岡環境市民部長

私から、地域の交通安全や防犯の取り組みについて市役所の立場でお答えいたします。

本市では、交通事故や犯罪のない、安全で住みよいまちを目指して、警察など関係機関のご協力を頂きながら、地域の交通安全指導員や、防犯協会会員など、活動の担い手となる市民の皆様と共に、主に皆さんのおじいちゃん、おばあちゃんの世代が中心となっていますが、こういった市民の皆さんと共に交通安全運動や、防犯活動を実施しております。

厚田地区にはご指摘のとおり、今年4月に道の駅がオープンし、車や人の流れが大きく変わりつつあります。本市といたしましても、地域の状況を踏まえ、必要に応じて、街頭啓発やパトロールの強化などを進めていきたいと考えておりますが、交通事故や犯罪は、いつどこで起きるか分からぬものであり、特に被害者となりやすい、小中学生の皆様におかれましては、自ら身を守る行動を心がけていただくことが重要だと考えております。

例といたしまして、今年7月、市内の小学生2名が、青信号の交差点で、自転車を押してルールを守って横断歩道を歩行中に、左折してきた自動車と接触する事故がありました。また、昨年は市内の中学生2名が、横断歩道で停止してくれた車に、お礼をしながら渡ろうとしたところ、反対方向から走行してきた車にはねられるという事故がありました。これらの事故の原因は、自動車の前方不注意によるものです。

このように、自分は交通ルールを守っていても、相手の過失や不注意などによる事故が度々起こっています。重ねてになりますが、自分の身は自分で守る行動をとっていただくことが重要と考えております。

繰り返しになりますが、地域の皆様と力を合わせ、街頭啓発、見守り活動を進めていきますが、交通安全主任指導員による交通安全教室も市内小中学校で実施しております。皆さんも交通安全教室で事故にあわないための行動を学ぶため、これまで以上に積極的に参加していただくことをお願いいたします。私からは以上です。

○議長

佐々木生涯学習部長。

○佐々木生涯学習部長

私からは、学校安全の観点からの答弁をさせていただきます。

これからくい打ちが始まる厚田学園は、保育園、小学校、中学校の子どもたちが同居し、図書館は地域の図書館としても利用されることとなります。そこで心配されるのが、不審者が学校の中に入ってくるのではないかということになるのですが、玄関はすべてオートロックシステムとし、相手の姿を確認した上で鍵を開けますので、どうか安心してください。

また、厚田市街の小学生の皆さんには、通学距離が少し伸びることになります。例えば吹雪で危険な場合は、スクールバスに乗れるようになりますが、みなさんの安全を第一に、柔軟に対応して参りたいと考えております。以上です。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、浜益中学校、木村議員、よろしくお願ひします。

○木村議員（浜益中学校）

市長、教育長にお聞きします。

北海道胆振東部地震が起きてすぐ、僕はこれまで大きな地震を体験したことは初めてで避難しなくてはならないのか不安でしたが、市長、教育長はどう思い、どのような行動をとりましたか。

○議長

鎌田教育長。

○鎌田教育長

ただいまの質問にお答えします。

もちろん、夜中での地震でしたので私も驚いて目が覚めたのですが、私は皆さんと同じくらいの年齢のとき、十勝の広尾というところに住んでいました。あの地域は地震が多いのですが、十勝沖地震というのを経験していて、震度も今回と同じくらいだったと思います。かなりの縦揺れを経験していたので意外と自分自身でどんな行動をとれば良いかということを含めて落ち着いていたのかなど今振り返れば思います。

震源地はどこだ、震度はどのくらいかということも含めて情報を得るということで、停電前はテレビをつけていましたが、停電後はラジオをかける、それから懐中電灯を用意するということで、状況の把握をしたところであります。そのまま、市役所の対策本部に集合して、第一に考えたのは学校施設の被害があるかどうかの把握です。幸いにして石狩市はそんなに大きな学校施設の被害は無かったです。

慣れではないですが、落ち着いて行動することが一番大事だと思っていますので、そのことができたことは自分自身の経験が活きてきたのかなと思っております。私からは以上です。

○議長

田岡市長。

○田岡市長

当日は2時頃に寝たと思います。びっくりして起きたのですが、気象庁と私の携帯電話には、大規模な災害が起きる際には、ホットラインが引かれる形になっていますが、幸いその電話は鳴っていませんでした。

次に考えたのがすぐ対策本部ということで、市役所から車でお迎えに行きますという連絡が入ったので、直ちに対策本部に入りました。周辺の情報、公共施設、怪我人はいないかの状況などを次々と各部から報告を受けました。その中で、ライフラインをどう守っていくかという問題がありました。水道、下水道の停電によってどのような問題が起こっているのか。これは命に関わる問題です。したがって例えば透析している20数人の明日予定の人。夜が明けたら透析に行かないと体に支障をきたすような人たちの情報が入ってきました。次に財産と言いますが、様々な建物は大丈夫か、被害の状況はどうなっているのかというので対策本部が開かれました。

引き続いて、その前の日にも台風がきておりましたので、市の職員の健康ということも考えました。ほとんど一月近く、週末になると何か起きていますので、それらを含めて対策本部の体制を交代し

ても引き継がれるような仕組みが必要で、一人の職員に預けたままにするのが大変だということと、厚田、浜益のように直ちに行ける場所ではないところにどのように連絡をとるかということで、それはテレビで実際に地域と繋がるということになっておりますのでそれらの情報を集めました。

しばらく経って一番の問題は、停電対策をどのようにするかということで、想定外だったのは市役所のロビーに充電して欲しいという方がたくさん来てロビーを開けた状況です。不思議なことにですね、充電をしに来ているはずなのに、待っている間に若い人たちがゲームをしている光景を見て、ゲームのための充電はこのような災害のときには遠慮するのが普通じゃないかと思ったのですが、社会というのは矛盾がたくさんあってそういうのが災害のときに現れてきます。全部が良い人ではなく全部が悪い人ではないという思いをしましたが、総じて石狩市内は災害が起きたにも関わらず、非常に不安定な要素がほとんど見受けられない。むしろ次の日の夜に市内を巡回しましたが、驚くことに、どこの家も焼肉をしていました。恐らく冷蔵庫の肉が溶けてしまったのでしょうかね。勿体ないということで暗闇の中で道路の上に椅子を出して近所皆で焼肉をしているのを見てですね、我が市は平穀だなと思いました。

最後に心配になったのは水道です。先ほど言いましたように水道の職員は企業の皆さんと一緒に頑張ってくれたと思っております。公共施設の安全のためにも地域の皆さんと一緒にになって守ってくださいました。

市長は微力ながら全体を知り、全体の中で特に何が大切かということを絶えず自分に言い聞かせて普段から自分で訓練を繰り返しています。そしてその思いを対策本部の中で、指揮命令という最終的にはこのときだけは皆さんどうしますかとは言いません。時間の問題もありますので、こういうふうにしなさいと言わないといけないとだめだという、指揮命令をすることもありました。自衛隊、消防、消防団の人、国、開発局、北海道庁など多くの皆さんのが参加する約三日間、四日間に及ぶ対策本部の指揮を行わせていただきました。おかげで特段の災害の被害が発生しない状況の中で無事解散できることは大変嬉しく思っておりますが、なお亡くなられた方、今も復興の作業に当たられている方に心から頑張ってくださいと思っています。

中学生は地域にとっての力です。守られる人であって参加する人であるということを忘れないで、ぜひ自分の役割の中で災害に対応していただければと思っております。

○議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

以上で、「生活環境・安全グループ」、「教育・学校グループ」からの一般質問を終わります。

発表を終えた4名に大きな拍手をお願いします。

ここで10分間休憩いたします。再開は15時20分といたします。

○副議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

大崎議長に代わり、ここから議事の進行を行います、副議長の石狩翔陽高校の喜多です。よろしくお願いします。

それでは、続きまして、代表質問に移ります。

「まちづくりグループ」の質問です。花川北中学校、中島議員、花川南中学校、田中議員、石狩中学校、堀井議員、浜益中学校、高村議員、石狩翔陽高校、大崎議員、よろしくお願いします。

○堀井議員（石狩中学校）

今回私たちは、地域の活性化や中高生の居場所のひとつとして石狩にも大きなお店を作つてほしいと考え意見を出し合っていたところですが、しだいに、そこに行けない人はどうしたら良いのかという疑問が湧いてきました。調べてみると、国の高齢化率は2025年の予想では35.5%のところ、石狩は2017年で31.3%、浜益区は55.1%ということが分かりました。また社会問題化している買い物弱者という言葉があり、65歳以上で車を持っていない、生鮮食品が売っているお店までの距離が片道500メートル以上のところに住んでいる人をさすことが分かりました。買い物に出かけられないことで、栄養失調になるのはもちろん、出かける気力などもなくなり、孤立してしまうということも分かりました。

特に、花川以外のところには大きめの店がありません。今は私たちの親が車を運転するため、週末には石狩の市街地や札幌へ買出しにでかけるなどしています。ですが、私たちの親も高齢化し車の運転が難しくなると買い物に困る人が増えるのではないかと思いました。

特に高齢化率が高い厚田・浜益や高岡地区等で買い物や病院へ行くための手段として、市はどのようなことを実施しているのかお尋ねします。

○副議長

田岡市長。

○田岡市長

ただいまの質問にお答え申し上げます。

出かけるための交通手段の確保について、なおこれから高齢化は進んでいくと考えられます。その中で住み慣れた地域で暮らしたいという方は非常に多いまちであります。したがって買い物弱者の問題を含めて、行きたい所に行けないという問題が出てきております。既に浜益区などにおいては、民営のバスが廃止になったタイミングを見て、デマンドバスの運行やスクールバスの活用をするといったような一般の人が混乗するような輸送手段を実行しておりました。これらの公共交通空白地での無料ではない有償運送は、仕組みとしてはありますが満足度は決して高くないということで、家から家まで全てを網羅することは中々難しい問題であります。

石狩市内の状況は、その地域によって違つてきています。高齢化率が比較的高いところは、厚田浜益を越えて高岡という旧石狩の中にもありますので、これらの交通事情をどうするのかという問題があります。今日も聚富地区の敬老会に行ってきましたけれども、何とか足を確保して欲しいという問題が出ておりました。それらについて本市では、デマンド交通を行ったり、現在研究会を立ち上げたりしています。自動車、バス、タクシーなど様々な学識経験者などを集めて進めておりますが、市長としては基本的な考え方を大きく変えようと思っています。今のJRが、採算性がとれないのでバスに転換してくれと言って鉄道をどんどんやめていく様に、今まで公共交通機関は採算性がないとそこに交通機関は置けないというのが、基本的な考えがありました。

交通機関を持続させるにはある程度負担が伴うという考え方でしたが、交通機関というのはもしかすると水道のようなあるいは下水道のような位置づけで良いのではないかと思います。使った人が利用度に応じてその対価を払うという仕組みから、皆が同じ条件になる可能性ということから考えると税金を使っても良いのではないかと。赤字の経営になったとしても、程度はありますが、税

金を使うことを考えていかなければならないと思います。単なる事業としての採算性から社会のインフラだというように考えていかなくてはならない時代を迎きました。超高齢化の時代にあって新たな発想の転換が必要です。

またその一方、花川北の紅葉山公園の遊歩道を使って、運転手がない車の実証実験を行っています。AI を使って地域全部の情報を車の中に入れ、何度も地域の情報を取り入れることによって、あらゆる事故想定や運転の条件を作っていく実験も行っておりますので、恐らく技術的な開発も含めて、これから新しい交通体系の模索が始まっていくのではないかと思います。これからまちに住むあるいは過疎地に住んでいても、基本的には同じ条件であるという一つに、この交通問題が出てくるのではないかと考えております。

一方で新しい時代の到来を告げながら従来の形、地域の皆さんのが支える NPO 法人の厚田で行っている地域の皆さんが前の日に予約を入れてそしてマイカーで最寄のバス停に連れて行く多層な仕組みを積み重ねて地域ごとに特徴のある交通の体験が作られていくように当然市も頑張っていかなくてはならないと思っておりますが地域の皆さんのご協力、そして更なるご提案をいただければ大変ありがたいと思っています。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

浜益中学校、高村議員。

○高村議員（浜益中学校）

私たちも部活で移動するときに利用するなどしていて、とても便利だと思っています。

普段は交通手段を確保することや事業者による移動販売で十分だと感じていますが、昨年の豪雨や今回の台風・地震を体験し、国道が通行止めなどになった場合などの不安があります。また、通信手段がとまってしまったときに、正確な情報を手に入れることができるかの不安があります。

浜益区に唯一あるコンビニが人手不足になり閉店するかもしれない、という話があります。地域の高齢化が進むことで、このような問題も出てきます。今後、厚田などでも同じような問題が出てくるのではないかと思います。国道の通行止めなどになってもある程度の期間は地域内で買い物ができるように、また、災害があったときの情報収集の場所としてはもちろん、海水浴やキャンプに来た観光客が気軽に利用できるように、コンビニなどを存続できるような支援や計画的に配置する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

○副議長

田岡市長。

○田岡市長

重ねてのご質問にお答えします。

最近では、インターネットによるネット通販や宅配サービスなど色々な方法が出来ていますけれど、ただいま例示に上がったように災害時にどうするとか、身近に店がないと困るという問題は確かにあります。特に浜益地区のコンビニについては様々なお話を伺うことが出来て、近くやめるのではないかというお話も耳にしておりますが、基本的に浜益地区の国道は民間企業がやって

もリスクがない店だと理解しております。したがって、基本的にはどなたかが代わる可能性が充分あると思っておりますが、本当に過疎地の中でその店しかないまちにおいては、税金を投入してコンビニを誘致し、赤字については税金が補うというまちもございます。

浜益については国道沿いで非常に利用度の高いところで、これから浜益を観光地として新たに231号の重要な地点として開発を進めて行こうということで調査に入っております。厚田の道の駅を拠点とした新たな観光圏で海外の人も231号に入っています。そう思っていますし、特に浜益地区においては、ユーカラを始め、自然、景観、幕末の歴史の舞台であったり、動物など非常に観光資源が豊かなところあります。過疎であっても決して豊かさは失わない地域であり、昼間人口を増やしていくことを思っておりますので、お店屋さんの全部が成立するかどうかは別としても、少なくともコンビニが成立するような背景は市としても作っていきたいと思います。したがって直接市が経営するということは今のところは考えておりませんが、市はコンビニの本店と言いますか、企業の本体に非常に近い関係にありますし、双方出店に当たって、あるいは石狩湾新港地域に立地するに当たっては、浜益の問題も機会を捉えてお話を直接店の方にも本店の方にも挙げていきたいと思っております。市としてもそういう意味で積極的にサポートしていくことについては考えていきたいと思っております。以上です。

○副議長

ほかに再質問はありますか。

再質問が無いようですので、最後に一言お願いいたします。

○高村議員（浜益中学校）

地域には多くの高齢者がいますが、デイサービスの訪問や地域の行事など、触れ合う機会も多くあり、お互いが顔見知りなのがよい所だと感じています。私たちは、浜益区に高校がないため、高校進学をきっかけに札幌などの親戚宅に住んだりするため浜益区を出てしまう可能性が大きいですが、帰ってきたときに安心して過ごせる、また高齢者でも安心して住める環境を整えていただきたいと思います。これで私たちの質問を終わります。

○副議長

以上で、「まちづくりグループ」からの代表質問を終わります。

発表を終えた5名に大きな拍手をお願いします。

続きまして、「人口問題グループ」の質問です。花川南中学校、折居議員、樽川中学校、中村議員、石狩中学校、大村議員、石狩南高校、森谷議員、よろしくお願いします。

○折井議員（花川南中学校）

私たちは、人口問題について考えました。

石狩市全体で見ると、子どもの数が減っているのが現状です。

石狩の小・中・高校の児童生徒も減少してきています。石狩南高校の募集生徒数も減っています。そのため、部活の数も減っていき、団体で行うスポーツができなくなっています。これは部活を引退した先輩方も、今部活をしている人にとっても、とても悲しいことです。私たち石狩の子ど

もが悲しい思いをせず部活をするには、石狩の人口が増えることが必要だと思います。

そこで、私たちは、石狩市の人団を増やすために、どうしたらよいか考えました。最初は、小・中学校に外国人の受け入れをしたらどうかという提案がありました。ですが、外国人の受け入れをすることは、言葉の壁が一番問題になってくると思い、少し現実味がなく感じたので、今住んでいる石狩の人にも、他の地域の人にも、石狩に行ってみたいと思えるように、石狩市をPRして知ってもらい、多くの人に住んでもらうことが必要だと考えました。

そこで質問です。市の人口減少の現状について伺います。また、市が取り組む人口減少対策として、具体的な取り組み、考えがあれば伺います。

○副議長

田岡市長。

○田岡市長

人口減少対策についてですが、元岩手県知事の増田先生が将来の日本の人口あるいは消滅する市町村というものを出してから、にわかに人口問題ということが世間の中で言われるようになりました。石狩市も平成19年12月の60,473人をピークとして現在は58,393人という状況です。ただ相対的に少なくなっていますが、地区別に言いますとこの10年間で増えている地域がたくさんあります。樽川が147%、緑苑台が111%、花畔が101%、花川東が154%です。このように伸びている地域もあって、実際の石狩の今の問題は、人口の地域格差が生じているということです。過疎地はどんどん減っている、あるいはかつて人口が増えた花川北のようなところは高齢化と共に人口が減ってきていて、87%という状況ですから、それぞれの地域で持っている産業とか歴史によってずいぶん変わってくるので、石狩市全体の話を少し俯瞰していかなければならぬと思っております。

相対論から申し上げますと、最近は、地域によって人口が増えているところがあると同時に、外国の方が非常に増えてきております。今年度から、政府において、特別な技術を持たなくともいいですよと言うように緩和をしたことによりまして、これから一般労働者も含めて相当数の外国の方が入ってくると考えられます。

もう一つは石狩湾新港が非常に活発になってきております。約30年間の間に種を撒いた様々な政策、あるいは企業の活動がようやくここへ来て花開き、そしてエネルギー関係の企業が次々と立地したり、通信のような企業が東京から北海道出身あるいは石狩出身の社員を連れて帰って来たりなど、働く場所が増えております。今、石狩湾新港地域の最大の問題は、働き手が少ないことです。ですから企業誘致をするときも、いくら補助金を出しますとか土地を安くするということより、従業員がいかに確保できるかということが問題です。働く場所があるということは、人口にとって非常にプラスになる要素を持っております。人口問題というのは、表で見ると減りますし、コンピュータによって将来を推計すると石狩は4万数千人のまちになりますが、石狩の総合計画では57,000人と、ほぼ現在の数字を確保していくのではないかと思っております。それはやはり、子どもたちに投資をし、子どもたちが成長する環境作りを政策の柱にして行こうということ、札幌のような大都市文化のすぐ側にあるということも大きいです。

またエネルギー問題は近未来に投資をするような問題です。超電導の世界一の実験場が石狩の新港にあつたり、再生可能エネルギーの実証実験が行われたり、もうすでに動いているものがあつたり、今度は厚田の地区で地域のエネルギーとなるべく再生可能エネルギーで賄おうという実験が行

われる話になつたりですね、当然そういう形になると、浜益地区を含めて石狩全体が地産地消のエネルギーを使う近未来への投資を行っておりますので、人手や人材は非常に必要なまちになると思います。

私は石狩がこのまま成長を続けるなら、今撒いている種が花開く時代が来たら、人口はコンピュータの推計とは違う人口になると信じております。上手な土地利用の仕方や、札幌都市圏にあるという位置づけをしつかり活用し、大都市圏になるゆえに成長する分野、それから子どもたちがもう一度石狩に戻って仕事がしたい、あるいは東京に行く前に石狩の企業を選ぶというようなふる里教育を進めていくという必要があると思います。これらを活用しながら、私は人口問題は悲観的に捉えていないと皆さんに訴えていきたいと思います。頑張って欲しいと思います。次の時代を作るのは皆さん方です。人口を減らさないのは市長ではなくて、皆さん方の石狩に住みたいという気持ちです。それから、石狩のまちを自らの手で良いまちにしたいという気持ちがあつたら、少なくとも石狩にとって人口問題は、そんなに悲観的なことではないと思っております。以上です。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

花川南中学校、折井議員。

○折井議員（花川南中学校）

先日発生した地震の後、石狩市にあるさくらインターネットのデータセンターについてのニュースがSNS等で大きな話題を集めており、私たちも記事を読みました。

地震後も電力の復旧までサーバーをダウンさせることなく、日本全体のインターネット環境に混乱を起こさなかつたことは反響を呼んでいます。また、石狩市にデータセンターを設置した理由として、寒冷地のメリットを活かした外気冷却の効率の良さ、東京ドーム1個分に相当する広大な敷地を用意出来ていたことがメリットとして記事内でも紹介されており、誘致された企業のニュースが石狩市の宣伝に大きくつながることが分かりました。私たちは、企業誘致の強化が、今後の石狩の人口問題解決の鍵なのではないかと考えました。

そこで3点お聞きします。

1点目は、今後さらにIT企業等の誘致を増やす考えはありますか。

2点目に、具体的な案、戦略等は持っていますか。

○中村議員（樽川中学校）

3点目ですが、東京などから企業を呼び込めば、企業で働く人が増えますし、男性も女性も育児と仕事をどちらも頑張れるような、住みやすい環境を整備すれば、住む人が増えるのではないかと考えました。ただ、市のPRと人に住んでもらうのどちらにも共通する問題が、交通機関が少ないことだと思います。例えば、市をPRする面では、石狩にイベントなどで来た観光客が、利用したいJRやバス、タクシーなどの交通機関が足りなくて、イベントに積極的に参加してくれる人が減ってしまうのではないかと思います。

また、人に住んでもらう面では、学校や少年団、仕事場などへの移動手段が少ないと、引っ越しを検討する人などに来てもらえないのではと思いました。市にとっても、石狩市に来る人にとっても、交通機関の不足はデメリットになっているのではないでしょうか。交通手段を充実させることによ

って、市のイベントに積極的に参加する人が増え、市の PR もになりますし、移動手段が増えて、石狩市に住みたい人もえると、年々減ってきている生徒数が増えることにもつながると思います。

そこで 3 点目として、交通機関の減少、不足についての市の考えについて伺います。

○副議長

田岡市長。

○田岡市長

再質問にお答えします。

IT 関連の企業誘致についてであります、地方都市が IT の企業誘致をすることが社会の中でまだ起きてない段階で、石狩市はすでに二日間で約 20 万人集まる幕張メッセでの展示会で、石狩で IT 起業をしませんかと売って歩きました。あるいは、北海道に頼んでアセスメントを作つてもらい、北海道の中で一番 IT 企業を立地しやすいところはどこか〇×を付けてもらったら、石狩が最も良いことが出ましたので、それらを東京で随分と売つて歩きました。

私は IT に関しては決して強くないのですが、ニッショーホールでシンポジウムを開いたときには満員になりました。それから、幕張の 100 名の会場で一万円の切符がわずか 5 分で売り切れました。石狩はそれくらい IT の候補地として注目されているということです。結果、さくらインターネットの社長とお会いすることが出来て、目と目が合つたその日からというように、何となく相思相愛になり、石狩が持つ様々な条件と、企業が持つ条件が合つて今日のようになりました。さらに新しい時代になってくると、技術が進歩して、自分たちで CO₂ を発生しない電力を使うことを考えるようになりました。世界のスタンダードは「物を生産する段階から炭素を発生しない」とよく言われますよね。CO₂ が発生しない自動車を作る間に、どのくらいの CO₂ を発生しているのか、と。結果として、ゼロの電気を作ったところに投資をしようというのは、世界の有力な企業の次の価値観です。アップルがそうです。ドイツの有名な自動車会社もそうです。日本の有名な自動車会社などもそういった価値観で、最先端を行く一部の上場企業は、ほとんど自前の電気を持ちたいと考えています。その電気は石炭火力ではありませんし、ガスでもありません。やはり、再生可能エネルギーを先行してそこに投資をする、ということに価値がある時代になっています。

石狩市では、若い職員の提案から、石狩市の新港にそのようなエリアを作つていただきたいと国の方に届けまして、様々な関係者が集まり、石狩湾新港における IT と再生可能エネルギーをどう活用するかという、次代の投資の戦略会議が開かれております。

少なくとも 50 年前に、石狩の農家の人たちが、「次の時代は農家をするより石狩に限られた真っ平らな札幌に近い、しかも海に近い土地を工業地にしよう」、「物流の基地にしよう」、「港湾を作ろう」と考え、先祖から伝わった土地を手放す決断をしたように、今の世代の次なる時代に向けた決断は、再生エネルギーにどのようにして投資をし、そして自分たちが払った税金をどのようにして有効に使ってもらい、それがどのように増えていくか、ということだと思っております。社会が変わってくる時代を迎えようとしているときに、石狩に企業を誘致する取り組みが始まっています。

ほとんどの人が知らないと思いますが、昨年、石狩で世界各地の研究者が集まって超電導のフォーラムが開かれました。全部英語です。市民図書館で二日間に渡つて行いました。そのように世界でできるモデルと言いますか、取り組みが行われていますので、これからは IT 関連の企業の注目度は多くて、私にとっては少なくとも具体性を帶びてきていると感じます。

交通問題ですが、日本ハムが北広島に行ったのは何となく寂しいと石狩の市民は思ったようですね。やはり鉄道がないことが、それは同感です。ですが、これからは自動車が全く違う形態になってくるのではないかでしょうか。従来の自家用車やバスは、ほとんど形を変えてきていますので、鉄道大量運送が全てだとは決して思いません。新しい時代の交通計画は、AI や IT 技術を含めて様々な形に発展していくと思います。その空間が広ければ広いほど可能性が高い。札幌市内では選択ができないのですが、石狩のように産業力や動く人口が増えるところに、新しい力学が働いてくると思われます。その間、市としても、先ほど答弁した研究会などを作りながら、身近な問題と近未来的な交通体制の在り方などについて議論を深めていくことになると思います。

交通問題は今まで、バスがないからライブに行けないとなっていましたが、バスを用意したら企業メリットになりますのでライブのために CO₂ の発生しないバスを 100 台提供してくれませんか、とか、高齢者の方に来て欲しいので低床バスを提供してくれませんか、というように、従来のような企業経営や運用の仕組みとは変わってくるのではと思っています。

夢の市長の希望とは言わずに、未来に期待して、ぜひ実践していただければと思います。
ありがとうございました。

○副議長

ほかに再質問はありますか。

再質問が無いようですので、最後に一言お願いいたします。

○中村議員（樽川中学校）

東京などでは、保育園の待機児童が多いのが問題になっているので、石狩市は待機児童ゼロの継続やイベント情報、他にも自然が多いこと、道の駅ができたこと、ライジングサンなどのイベントなど石狩市の魅力を前面に押し出して、企業や子育て世帯を石狩市に呼び込んでいただきたいと思います。

○副議長

これで、「人口問題グループ」からの代表質問を終わります。

発表を終えた 4 名に大きな拍手をお願いします。

それでは、続きまして、一般質問に移ります。花川北中学校、中島議員、花川南中学校、田中議員、石狩翔陽高校、大崎議員、石狩中学校、大村議員、石狩南高校、森谷議員、よろしくお願いします。

○大崎議員（石狩翔陽高校）

今回大きな地震があったとき、両親は仕事で外出しており自宅にいたのは私だけでした。すぐに母と連絡がとれたため、不安は大きくならず済みましたが、友達の中には、津波が来るかもしれないと考え、避難した人や避難の準備をした人もいると知りました。津波が来るかどうかの情報をいち早く知ることができればいいと思いますが、停電になった場合、どのように情報を知ればよいでしょうか。

○副議長

及川総務部長。

○及川総務部長

ただいまのご質問に私からお答えします。

地震は突然発生いたしますよね。市からの津波に関する避難指示を待っていては避難が遅れてしまうこともあります。そのため、地震が発生し、津波の発生が予想される場合については、気象庁から3分ほどで津波に関する警報あるいは注意報が発表されますので、電気がついている場合は、まずテレビやラジオ、スマートフォンあるいは携帯電話で、地震の大きさですか、津波が来るかの情報を確認していただきたいと思います。

ただし、ただいまのご質問にもありましたように、停電が発生し、テレビを見ることができない場合については、スマートフォンあるいは携帯電話、電池式のラジオなどで確認する方法がございます。普段から、こういった機器を小まめに充電、あるいはラジオに乾電池が入っているかの確認をしてもらいたいと考えております。例えば、夜にこういった停電の場合があるかと思いますが、そういった場合でも置き場所を日頃から決めておいていただきて、暗い中でも探せる準備をしておいていただければと思います。

また、各家庭にお配りしている地区防災ガイドの中に、津波の場合の避難場所が記載されておりますので、その場所を確認しておいていただきて、もし津波警報が発表された場合には、市からの指示を待つことなく、速やかに避難していただきたいと思います。

また、どうしても外部情報が確認できない場合は、強い揺れですか、あるいは弱い揺れであっても、ゆっくりとした長い揺れを感じたら、津波が発生する可能性がありますので、大事をとって安全な場所に避難していただきたいと思います。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、花川北中学校、中島議員、よろしくお願ひします。

○中島議員（花川北中学校）

停電時の在宅での医療行為が必要な人への対応について質問します。

9月の震災で停電になったとき、看護師をしている母は人工呼吸器をつけている方など、停電が命の危険につながってしまう患者さんの対応に大きな不安があったと話していました。今回のように停電が長引いたとき、在宅で医療行為が必要な人への支援などはどうになっていったのか教えてください。

○副議長

三国保健福祉部長。

○三国保健福祉部長

中島議員のご質問にお答えします。

このような災害のときの災害弱者への協力体制は、普段の私どものあらゆる事業所それから社会福祉協議会といった法人団体がございます。ここにはボランティアの各種の団体とともに全てネットワークになっており、医療関係で言えば医療機関、又はそれを取りまとめる医師会、保健所、こうい

ったところと常日頃からネットワークを組んでおりまして、今回の停電時に際しても協力体制のもと、各個人の状況の把握と安否確認、それから何か困ったことはありませんかとお尋ねもして対応してきました。

ご質問にありました人工呼吸器等の充電式の機器類が生命のライフルインにつながっている方は、確かに今回の停電で非常に危惧される状況に陥りました。私どもの方では各個人の連絡先を分かっていますので、まずはご連絡をして状況を確認、そして役所の隣にありますりんくるは自家発電で動いていますので災害時に充電しに来られませんかとご連絡し、来られる方もいらっしゃいました。それからまだ余震も続いていましたので、不安であれば泊まって行きませんかということで、実は泊まりになられた方もいらっしゃいました。

人工呼吸器等に関しましてはこのような対応で停電対応はできたかなと思います。

ただ、ご質問にありましたとおり、災害はそのときそのときのケースバイケースで困っている方は変わってくるのかなと思っています。今後も色々な方とネットワークを通じて様々な皆様の状況を把握しながらとり進めていきたいと思っています。以上です。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、花川南中学校、田中議員、よろしくお願ひします。

○田中議員

石狩には大きな店が少なく、友達と気軽に立ち寄って話ができる場所が緑苑台にあるイオンでしたが、テナントが撤退してフードコートがなくなってしまいました。

新港地区に4階建てのスーパーホテルができること、花川南と北の間にある花川通が延長されて新港地区へつながる計画があることを知りましたが、その辺りに大型ショッピングセンターを誘致する予定はありますか。

○副議長

小鷹企画経済部長。

○小鷹企画経済部長

ただいまの田中議員のご質問に私の方からお答えします。

大型ショッピングセンターの進出については、運営する事業者におきまして、ここに店を作つて人が来るのか、あるいは儲かるのかといったような調査をして投資と利益のバランスを総合的に検討した上で、出店を判断することになります。また、市民における商業施設のニーズは、世代や個人の趣向等により、大きな違いがあると想定されますから、商業施設が求められている各種機能等については、行政だけで判断することは難しいと考えております。

しかしながら、他地域の事例を見てみると、進出した周辺に賑わいが出てくる事例も多く見られますので、地域の活力につながっていると考えております。

これらのことから、商業施設の事業者から進出の打診があった際には、まずは、まちづくりにおける市の基本的な方針等を吟味いたしまして、市民の皆様からのニーズを適切に反映出来るよう事業者と連携を図って参りたいと考えております。また同時に、進出、出店が実現できるように、今

後も誘致活動を進めて参りたいと考えております。以上であります。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、石狩中学校、大村議員、よろしくお願ひします。

○大村議員（石狩中学校）

市長に伺います。

これからの中では私たち学生が背負っていくことになります。私たちは 25 年後 40 代、親世代となります。そして田岡市長も来年の 6 月には任期が終了するという話がありますが、今後田岡市長が任期終了した後の 25 年後、石狩市はどんなまちになって欲しいとお考えですか。石狩市が目指して欲しいことについて伺います。

○副議長

田岡市長。

○田岡市長

ただいまの質問にお答えしますが、私が答えるより質問者の方が正確なイメージを持つんじゃないかなと思いますが、少し年老いた市長の最後の言葉だと思って聞いていただければと思います。

昭和の時代を生きた私たち、物作り、産めよ増やせよ、経済的に豊かな国を作りたい、利便性のある国を作りたい、戦後からずっと続いた豊かさと利便性、経済的な発展を求めた日本の国が、今様々な場面で世界に評価される国になってきたことは事実であります。その結果、世界の豊かな国と言われる先進国において、何が一番課題になってきたかというと、21 世紀は環境の時代だと言われております。アメリカの大陸の下に眠っていた氷河期に作られた水が、ほとんど農業用水としてポンプでアップされ、そして地球温暖化の現象によって、ヒートアイランドの代表的な水のない国になると言われております。食糧問題、水問題などを含めますと、世界は爆発的な人口を抱えた地球の包容力よりすでに 1.5 倍の人口がいるのではないかと言われております。したがって、私たちあるいはあなたたちのお父さんお母さんやご家族の皆さんが育ってきた昭和、あるいは戦後からの時代のような感覚で将来を見ると大変見誤ってしまうのではないかと思います。

今の石狩市において、水が将来枯渇する、全く飲めなくなる、農業用水がなくなるとは具体的には感じないと思いますが、大雪山山系に雪が降らないと、石狩川の水位が一番下がるときにはすでに数十センチ下がっておりますし、数十センチ下がるということはその分だけ海から海水が入ってきて水田が作りづらくなっています。したがって、広大な真水のプールを作つて、そこから水田に入れております。いまは、一週間くらいで雨が降ったりしますから起きて来ないのですが、これが二週間になり、プールにある水もだめになるとどうでしょう、身近な問題ですよね。もう石狩川の平均水位がどんどん下がってきています。そして大雨になると一気に増えて水害になる時代になると、従来の価値観ではとっても推測することは難しいと思います。水や森や歴史やふる里意識とかですね、そういう無形の価値観というものがさらに強くなってきて、文化とかそういうものがさらに価値観を生んでいくと思います。

当然、成熟社会においては、共生という一つの大きなキーワードになります。差別のない世界。皆一緒に普通に暮らせる世界。そういう世界がこれからの理想としてありますが、現実としてもその

ような趣向にどんどん向かっていくと思います。資本主義によって、利益が一箇所に重なるようになってきています。一箇所に集まった結果、環境問題で水が飲めず食料も食べれないで亡くなる子どもが出てくる。そういうことを考えると、次の時代は少なくともそういう社会に石狩がどう生きていけるかということを考えていく必要があると思います。40年前を振り返ってみると、ちょうど私が役場に勤めて10年目の職員でした。石狩湾新港がようやく始まって、新しい石狩の姿が出来て、花川北団地が出来て、南の団地が出来る時代は、まさに昭和の発展の典型的なまちだったと思います。そして次の時代の21世紀中後半は、まちとして環境にいち早く気が付き、環境に価値観を持ったら、産業も子育ても農業も水産業も全てその価値感の基に新しい時代が築かれると思っています。例えば石狩は人口は10万人いますよとか、日本ハムの球場が来ますよと、具体的に言えないのが残念ですが、大事なことだと思っています。環境という視点から入っていきますと、世界の公用語の英語がいかに必要かという問題にもぶつかって来ますし、逆に日本の国語はすごく大切で世界に自慢できる言葉ですので、そういう言葉を大切にするということも次の時代を生む土台として極めて大切なことだと思っています。しっかり勉強して、将来を見据えて、素晴らしい人間に成長していただければ、私が将来像を喋らなくても、市長任せてくださいと言っていただければ大変ありがたいと思います。終わります。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

続きまして、石狩南高校、森谷議員、よろしくお願ひします。

○森谷議員（石狩南高校）

先ほどの質問でもありましたが、市長は来年の6月までが任期であり、IYPの答弁はこれが最後になると伺っています。

市長と教育長にお伺いします。今回のIYPに参加した我々中高生にメッセージをお願いします。

○副議長

鎌田教育長。

○鎌田教育長

皆さんにメッセージということでお話を。

今市長の方から25年後の熱いお話を皆さんに伝わったと思います。

間違いないのは、25年後は皆さんが中心になるということです。他の誰でもなく、自分たちで考えながら色々なことに頑張っていただきたいなと思います。ただ難しい話をしても今の段階の中では中々実感が湧かないのかなと思いますので、私の方から二つほど皆さんに期待感も込めてお話をさせていただきます。

これから自分の人生を歩む中では、常に自分を信じて何事も諦めずにチャレンジする気持ちを持ち続けていただきたいと思います。

ご承知のように今年のノーベル医学生理学賞に日本人が選ばれています。この分野におきましては過去にもたくさんの日本人が選ばれていますが、概ね共通する成果を支えている要因については、まず類い稀な好奇心を持っている方々ばかりだということです。ですからそういった意味で色ん

な分野において好奇心を強く持ってチャレンジして、将来ぜひ石狩市からノーベル賞を受けるような人材になっていただきたいと思います。

もう一つは、今皆さんの友達あるいは仲間たち、これは生涯の友として大事にしていると思います。一方でこれから出会う人、色々な形の中でその出会いが皆さん生きるうえでの力になると思いますので、ぜひその出会いを心待ちにしながら、わくわく感を持って日々を生きていただければと思います。色々なことに負けないで頑張っていただければと思いますので、ぜひその辺については期待しておりますので頑張ってください。以上です。

○副議長

田岡市長。

○田岡市長

私からは今日の答弁に都度入れさせていただきました。それらを集約すると皆さんは学校の中で、学校を政府としたら政府の一員として生徒会活動や様々な委員会活動の中で動いていると思います。あるいは学校の中で選挙もあると思います。それが石狩のまちだと考えたときに実は石狩のまちはですね、平成29年10月に開かれた第48回衆議院議員総選挙において比例区に投票した人は58%、小選挙区に投票した人は59%、若い人は40%、平成28年7月に開かれた参議院議員通常選挙は55%、平成27年5月に開かれた石狩市議会議員選挙については50%を割る、北海道知事選挙については57%、北海道議会議員選挙は56%というように非常に投票率が低いまちです。どうでしょうか、学校の中で生徒会長を選ぶときに、もし半分の人が棄権したらその生徒会長はやる気になるでしょうか。あるいは選ばれた人にとっては本当にやっていいのだろうかという気持ちになります。学校の中で半分の人が棄権するという状況が今石狩のまちの中で起きています。そして若い人たちが投票しないのではないかというマスコミの決め付けを含めて、実際若い人々は政治に背を向ける傾向が強いです。今の日本の民主主義はシニア世代と言いますか、民主主義と言われるほど高齢者の意見が通る国家になっております。

もう選挙権を持っている方もいると思いますが、ぜひ今日のような思いがあつたら選挙に行くこと。このことに最初の第一歩が始まると思います。選挙に行かない人は次の世代を語ったり、現状に苦言を呈することはできないのではと思います。ぜひ投票行為に参加するような大人になっていただきたいと言うのが私からの願いです。以上です。

○副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

石狩南高校、森谷議員。

○森谷議員

市長、教育長メッセージありがとうございました。

再質問ではありませんが、ここでお礼の言葉を言わせていただきます。

我々子ども議員はいただいた言葉を胸にこれからの中学校生活、高校生活を過ごしていくこう思います。ありがとうございました。

○副議長

以上で、「まちづくりグループ」、「人口問題グループ」からの一般質問を終わります。

発表を終えた 5 名に大きな拍手をお願いします。

○副議長

これをもちまして、全ての質問を終了いたします。

田岡市長、鎌田教育長、市役所のみなさん、今日は私たちの提案を聞いて、質問に真剣に答えていただき、ありがとうございました。

6 講評（石狩市議会副議長 加納洋明）

○副議長

続いて、石狩市議会、加納洋明副議長から、今日の子ども議会の講評をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○加納副議長

大変長時間に渡ってご苦労様でした。

今日は皆さんのがいの丈を発表することは出来たでしょうか。議会としても、皆さんの色々な発表を聞きながら年齢の違いはあるけれど同じような視点で問題意識を持っているということを私たちも皆さんから色々学ぶことも大変ありました。本当の議会で開いていることもこういう感じでやっておりまますので、即さんが戦力になるくらいの議員さんになれるかなと私は個人的に思っております。

去年の子ども議会のときに市役所の職員を目指すという子ども議員の方が一人おりましたけど、冒頭日下部議長からもお話ありましたが、石狩の議員を目指して自分の手で石狩のまちを作っていく人になっていただければと思います。

今日は、代表質問と一般質問ということで、初めての試みだったと思いますが、皆さんの思いを一つの意見にしていくということも大事なことです。また個人で思っていることを発表することも大変大事なことと思っております。そういう面では今日の質問の中で、例えば「生活環境・安全グループ」の災害のことについてということで、直近の一番の皆さんのが私たちも含めて実際意見したことなんですね。ですからそのことをもちろん行政がやること、個人がやることそれぞれの立場のやることがありますけど、災害時についてはまず自分が何をしようかということをやっていただければと思います。また教育のところにも関わりますけど、例えば北海道の防災教育は全国的に大変低いと言われております。ですからそういった意味では石狩も含めてありますけど学校においての中でも、防災教育の充実、また避難訓練、一年間に 5 回も 6 回も行っている学校もあります。ですから皆さんもこういうことを通しながら防災意識をしっかりと育していく、また自分の身に付けていくことが大事かなと思いますので今回の体験を大事にしていただければと思っております。

また教育の関係で教科書を持っていくのが重たいということで、実は私も今回の議会でそのことの質問させていただきました。皆さんと同じ内容です。ただ皆さんのが素晴らしいなと聞いていたのは、教科書の分冊化、上下に分けるとかですね、そういうこともできるんだよなど今日聞きながら思ったのですが、これはこれから教育委員会の方がどういった形でチャレンジしていくのか分かり

ませんが、私たちの目から鱗のような質問していただいて大変関心しております。

また一般質問は、市長の一番辛かったこととか得したことという私たちの視点からは中々思いつかないような質問でありますけど、これについても市長から率直な答弁をいただいていたのかなと思っております。それから道の駅、厚田のこれからまちの隆盛のためにも学校だとか、色々なものを中心としながらまちづくりをしていくという部分では安全安心、防犯意識の問題含めてやっていかなければならないという視点を皆さん方が持たれたということも大変大事なことだなと聞いておりました。鮭のPRについても全国的に言いますと石狩鍋と言いますよね。日本全国どこへ行っても石狩鍋となっています。地名の付いた鍋の名前は全国的にあまりないです。そこだけに自信を持ってくださいと言うのも変ですが、北海道の遺産にもなっています。そういう視点からも見ていただければと思います。それから市長、教育長の地震発生時の行動ということでドキッと来るような質問でありますが、市長についても3時以降に役所の方にすぐ上がってきて指揮をとられたと聞いておりまし、私たちも早朝に役所に来てどういう形でどうやつたらいいかということを含めて情報を 통하여対応させていただきましたけど、まずはしっかりとまちのリーダーがやっていくということが大変大事なことだなと思っております。

二つ目の代表質問の「まちづくりグループ」、「人口問題グループ」についても大事な視点で、買い物難民の問題とか、交通アクセスの問題も本当の議会の中でも色々な議論しておりますけれど中々解決策を見出せないということが事実であります。ですからこのことについては一回聞いたから終わりと言うわけではなくて、しっかりと実現できるような思いで引き続き取り組んでいくということが大変大事なことでありますので、また皆さんから知恵をいただければと思っております。

後は一般質問の中で、地震後の津波の情報とか停電後の在宅医療の関係は、大変大事な視点だと思います。それから大型ショッピングセンター、石狩でも計画だと色々あったのですが、計画だけで終わってしまったと私たちも聞いておりますけれど、私たちも石狩が元気で本当に素晴らしいまちになるように取り組んでいかないと思っておりますし、25年後の石狩については、たぶん私はもうこの世にいないと思いますけど、皆さん方がそのときに石狩の中核となってしっかりとまちを牽引していく力になっていくんだという思いを発言を通しながら、持っていたらいいなと思っております。

後は議会といたしましてもこのような機会を通しながら、本当に若い皆さんに議会の仕組みも含めて色々なことを理解していただいて、自分が将来石狩の議員になって素晴らしいまちを作っていくという思いにこの機会を通しながらなっていただければと思っております。大変貴重で何日もかけて質問を色々考えてきたと思いますが、今回自分が考えた質問が使われなかつたかも知れません。ですからそういうものを何かの場で引き続き訴えていく場も作っていただければと思います。まずは今日の子ども議会、皆さんのが思いで、素晴らしい子ども議会になったと思います。また、ご父兄の皆様も傍聴席から応援していただき、我が息子、我が娘がしっかりと発言していた姿を見て大変感無量だと思いますが、それだけに留まらず、素晴らしい石狩の人材に育っていただければと思います。今日は本当にありがとうございました。ご苦労様でした。

○副議長

加納副議長、ありがとうございました。

7 閉会

○副議長

皆さん、お疲れさまでした。

子ども議会という場で、石狩市のまちづくりについて意見表明ができたことを、とても嬉しく思います。ここで体験できたことを大切に、これからも「いしかりが好き」と思えるよう、石狩の未来に关心を持ち続けたいと思います。

以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。これをもちまして、平成30年度「IYP～石狩の未来を考える子ども議会」を閉会いたします。

皆さん、ありがとうございました。

○子ども議員

ありがとうございました。

平成31年 2月 10日議事録確定

議事録署名議員 堀井 杏珠